

# イカナゴ情報 No.1 (2026年5月)



道総研

2026年(令和8年)6月3日

道総研稚内水産試験場調査研究部(担当:澤村) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類<sup>1</sup>の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

## 海洋観測: 漁場(水深40~80m)の底層水温は前年より低い

宗谷海峡東方オホーツク海海域の3ラインにおいて、試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場環境調査を5月27~28日に行いました(図1。ただし2025年及び2026年のラインCはIS17~IS18までの観測)。観測ラインの水温鉛直分布(図2)は、ラインAでオッタートロールの主漁場となるIS02より沖側(水深40m以深)の海域、およびラインB、Cでかけまわしの主漁場となるIS11、IS18より沖側(水深50m以深)のいずれも前年より低い場所が多く、イカナゴが生息する底層の水温(図3)についても、特に沖合の海域で前年より低くなっていました。全体としてイカナゴの漁場となる水深40~80mの底層水温は、2026年度は前年に比べ低い値でした。

## 魚探観測: イカナゴ類とみられる反応はあまりみられず

海洋観測と併せて調査ライン上での計量魚群探知機による魚群の探査を実施しました(図4)。トロール調査による漁獲がみられたIS02~IS03間などで形状や分布水深がイカナゴ類に似た反応が小規模に認められたものの、全体的にイカナゴ類と思われる反応は散発的で数も少なく、明確な分布の中心はみられませんでした。

## 体長組成: 前年及び過去5年平均と比較して小型の個体为中心

調査中、ラインA周辺でオッタートロールによる漁獲を3回行い、うちIS02~IS03間(東経142度21~22分付近)水深75m周辺で30分の曳網により81.4kgのイカナゴ類が採集されました。漁獲されたイカナゴ類の体長は16~23cmの範囲にあり18cmにピークを持つ単峰型の組成で、前年及び過去5年平均に比べ小型の個体が組成の中心となっていました(図5)。他の2回(IS02西側水深60m付近、IS05水深80m付近)はイカナゴ類の入網はみられませんでした。イカナゴ類以外の漁獲物としてはカレイ類、カジカ類、マダラなどがみられました。

<sup>1</sup> イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの3種が含まれる(Orr *et al.*, 2015)

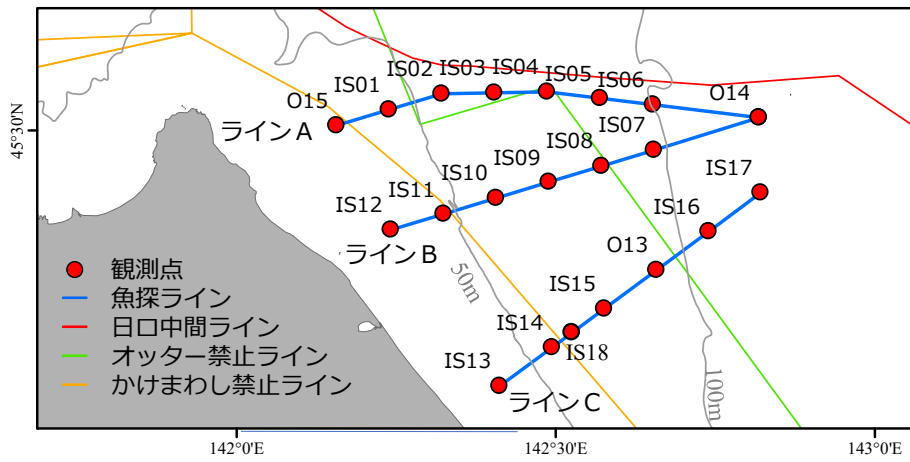


図1. 海洋観測および魚探観測ラインの位置

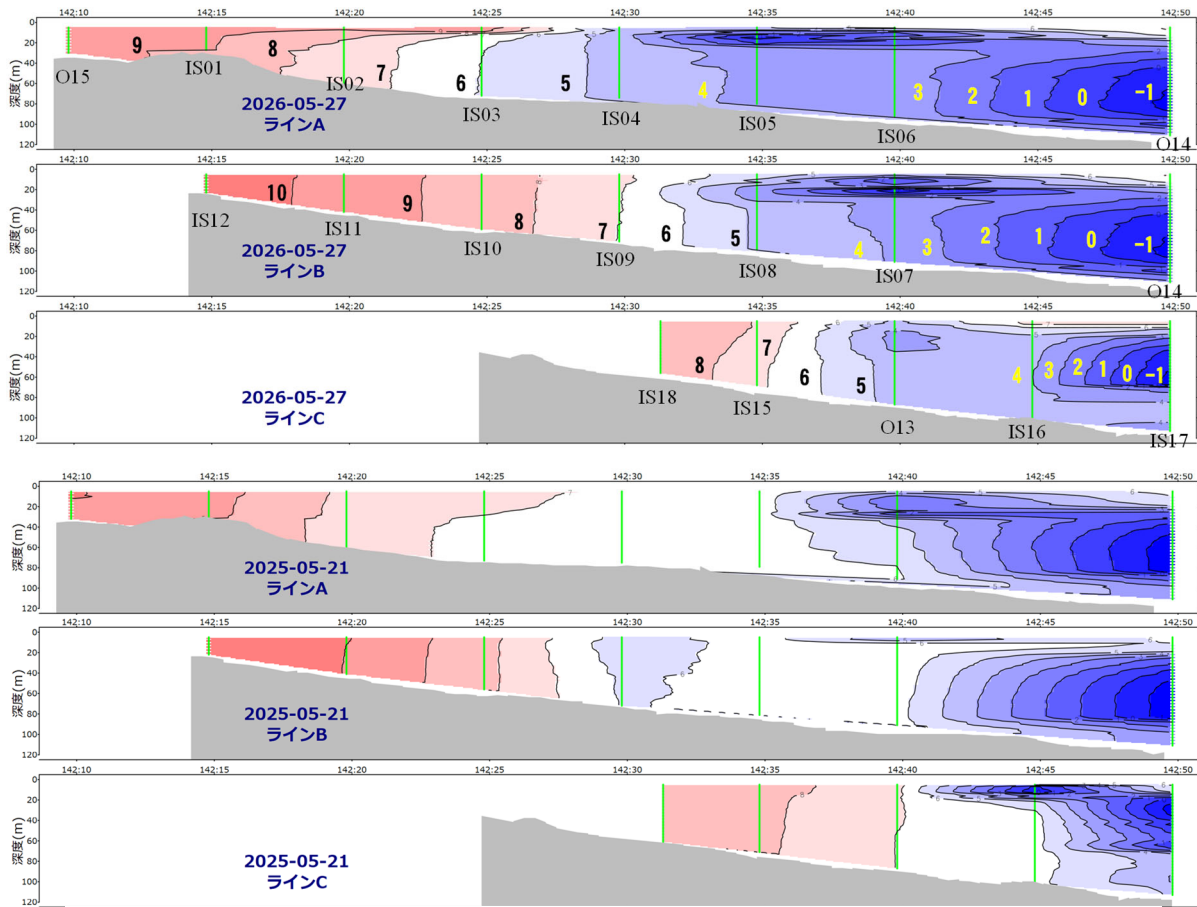


図2. 2026年（上）および2025年（下）の各調査ラインの水温鉛直分布

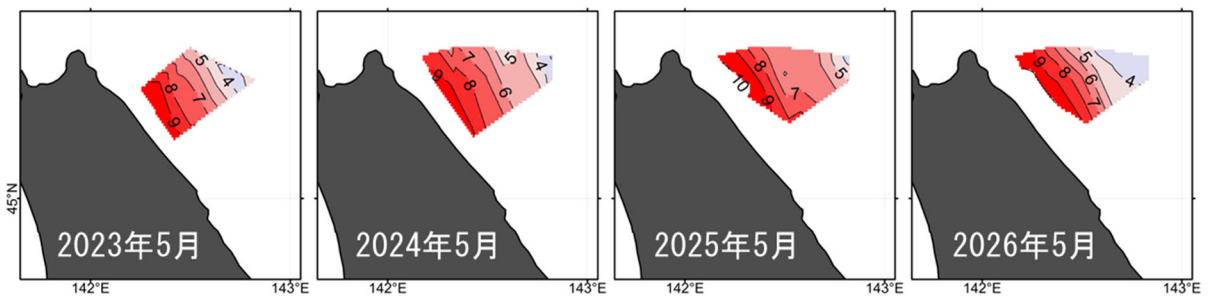


図3. 2023～2026年の調査海域における底層水温の水平分布

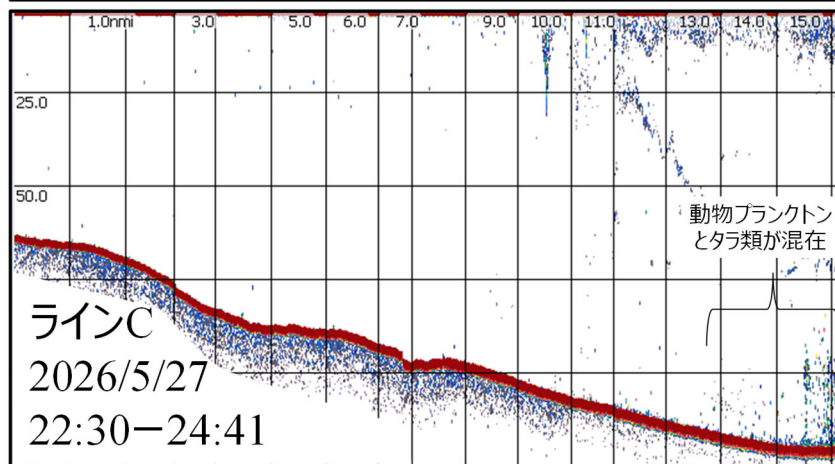
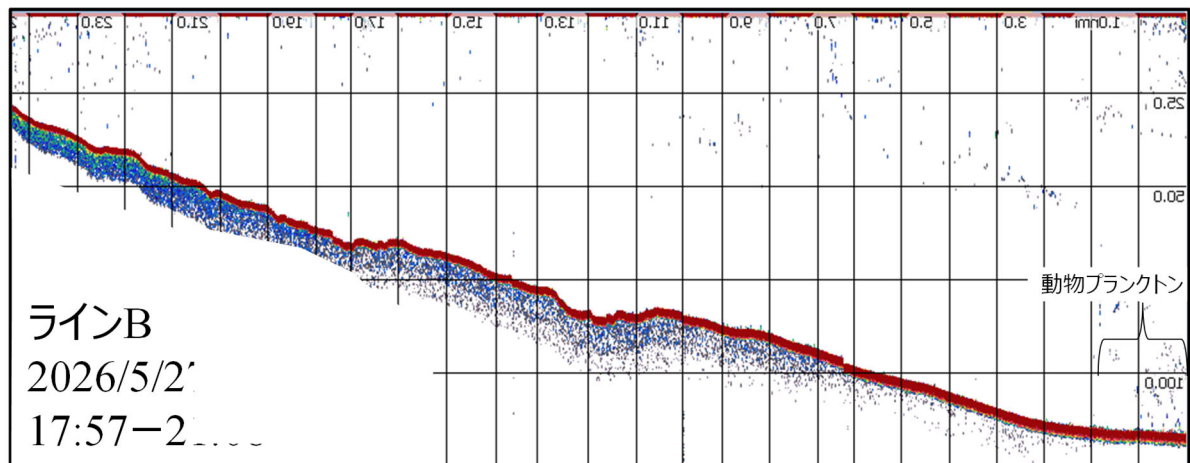
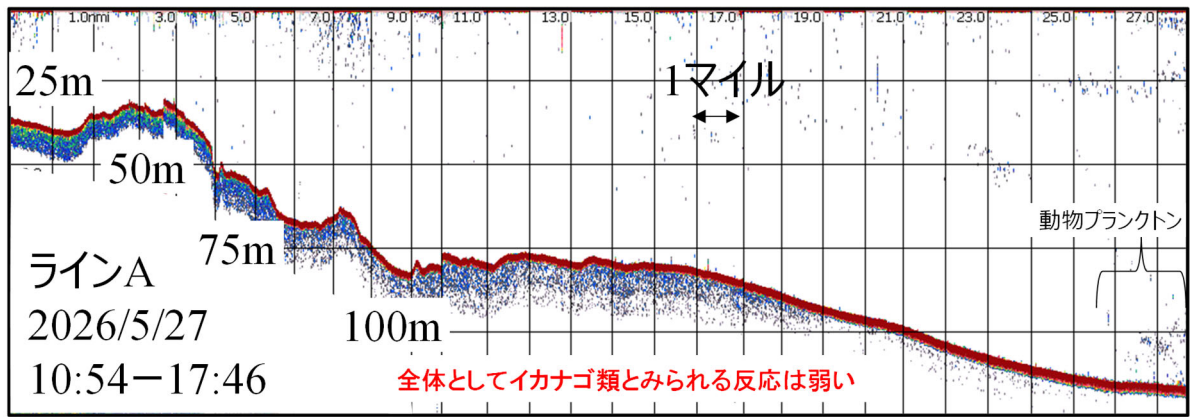


図 4. 各観測ラインにおける魚群探知機の反応

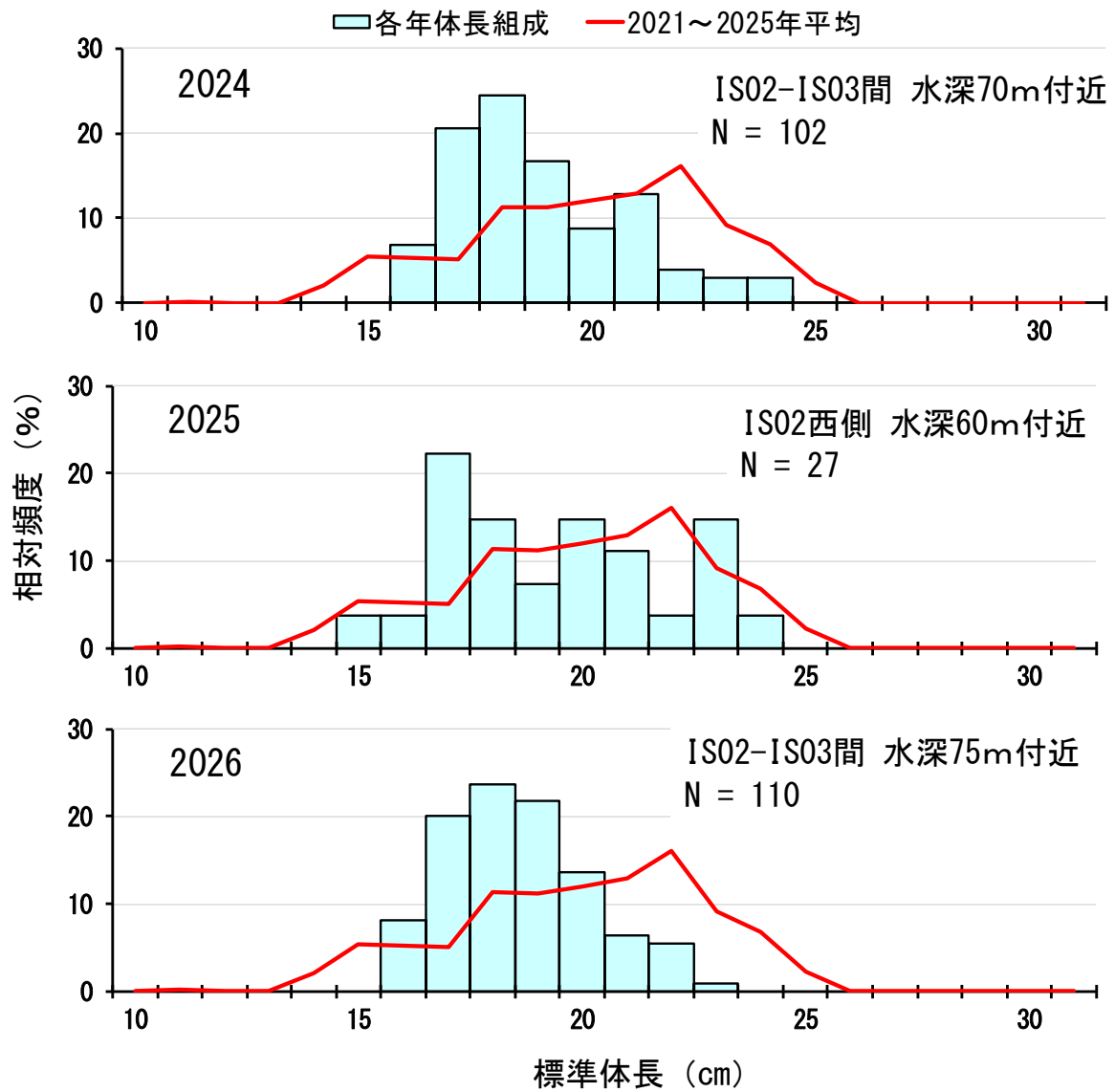


図5. オッタートロールにより採集されたイカナゴ類の体長組成